



学生達の社会教化

大正大学 BSR 推進室
仏教学科 社会教化者養成講座担当

講師 藤田 祐 俊

大正大学には「社会教化」と名のつく講座が「社会教化総論」・「社会教化方法論」・「社会教化演習 A・B・C・D」と 6 講座あります。社会教化者養成講座と呼ばれ、「社会教化研究会（大正大学教化教育研究会）」の講師が現代問題と仏教に関する講座を担当しています。

講義内容は総論や方法論では、実際に社会教化を行っている先輩僧侶をゲスト講師に迎え、教化の現場での体験や問題点について講義して頂き、学生達とディスカッションを行っています。また、演習では自分で選んだテーマについて発表し、また与えられたテーマについてディスカッションを行い、更には実際に寺報を作成し、学

生達自身が中心となって講義を進めています。

その演習のなかでも社会教化養成講座「大正大学成道会（お釈迦様の悟りを開いたことを記念し、お祝いする仏教行事）」の企画・運営は名物講座です。昨年度の講義概要には「社会教化の視点から、仏教行事の意義を理解し、企画・運営・実施の視点や、その技法を学んでいく。大学の宗教行事である「成道会」を運営する。受講生全員で実行委員会を組織し、具体的な企画・運営を通じて、伝統の枠にとらわれない、豊かな発想と表現方法を経験的に学び、これからの仏教行事のあり方を模索する。」とあります。

BSR 通信

BSR 推進室ニューズレター第 17 号

平成 27 年 8 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室
〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1
03-5394-3079（直通）
bsr_lab@mail.tais.ac.jp

目次

- 1 頁：巻頭言
- 2 頁～3 頁：研究ノート
- 4 頁：BSR 図書室・今後の予定

「成道会」は大正大学では昭和 61 年より開催されてきましたが、ここ 15 年仏教学部の学生達が中心となり社会教化演習の実習として執行されてきました。私も平成 17 年から 3 年間担当させて頂きました。

受講生全員で実行委員会を組織し、委員長を中心に大学・地域・学生会などと実際に交渉し実施に向けて 3 ヶ月弱全力で取り組みます。商店街を練り歩く際の、「道路使用許可書」も一緒に警察署に行き申請し、実施に際してどのような準備が必要かを考えさせます。

本年も、秋学期この講座が開講されます。学生達の本気の社会教化「成道会」にご期待下さい。

研究ノート

仏教新潮流

—若手僧侶と超宗派①—

この約 10 年の間で、仏教界では新しい動きが生まれてきています。そのキーワードは「若手僧侶」と「超宗派」といってよいかと思います。

たとえば、平成 15 年から 24 年にかけて、「超宗派」で新聞・雑誌記事を検索した場合、3 倍の記事数にのぼり、「超宗派」+「若手」で検索するとさらに増加率は上昇します。（公益財団法人国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンターにて検索）記事数だけの検索ではかることはできないとはいえ、社会的に注目されるようになっていえるのではないのでしょうか。

今回は、そうした観点にたつて、ここ 10 年ほどに生きてきた、仏教界の新しい流れについて論じていきます。

外部からの応援者—上田紀行氏—

まず、キーパーソンとして挙げられるのは、現在、東京工業大学リベラルアーツセンター教授の上田紀行氏でしょう。

上田氏は、平成 15 年 5 月、港区愛宕にある曹洞宗・青松寺にて「仏教ルネッサンス塾」を塾長として開講しま

す。青松寺のホームページには、「仏教ルネッサンス塾は『これまでの仏教の枠にとらわれることなく、時代に沿った、テーマを毎回設定し、斬新なゲストと共に仏教の役割、可能性を改めて探求しよう！』と 2003 年 5 月にスタートしました」とあります。古刹として知られた青松寺が、再開発により両脇に超高層ビルを抱えた、近代的な寺院に生まれ変わったと同時に始まった、このルネッサンス塾には、毎回、多彩なゲストが登場し、100 名を超す聴衆が参加する熱い場となっています。（全 25 回にていったん終了）

また、平成 16 年 6 月には、NHK 出版より『がんばれ仏教！お寺ルネッサンスの時代』を刊行。志をもって、時代に向き合つて、実践をおこなっている僧侶を紹介し、仏教に求められていること、お寺や僧侶への期待が書かれた本書は、広く話題を呼び、多くの若手僧侶を勇気づけたといえます。

そのほかにも、上田氏は、平成 17 年にスタンフォード大学仏教学研究のフェローとして、1 年間全 20 回の「今の仏教は現代的問いに答え得るか」という講座を担当、さらに、平成 18 年にはダライ・ラマ 14 世との対談本『目覚めよ仏教！—ダライ・ラマとの対話』を刊行するなど、国内外をとわず、現代社



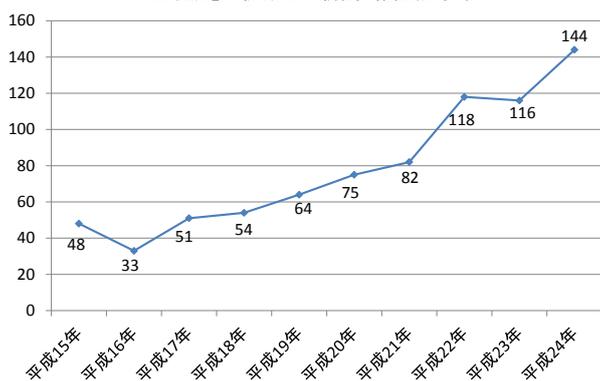
会と仏教の関わりについて発信をしています。

ポーズ・ビー・アンビシャス!!

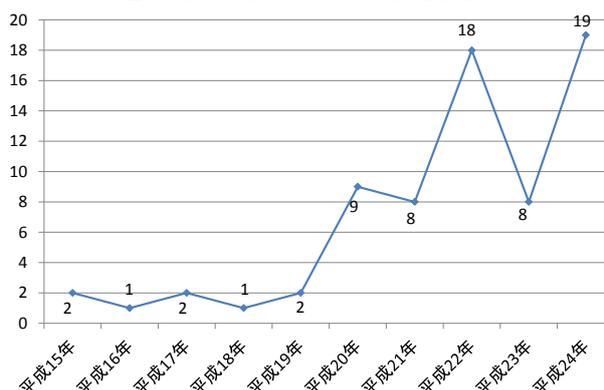
さらに、先述の仏教ルネッサンス塾から派生した注目すべきものとして、平成 15 年 10 月からスタートした若手僧侶を対象にしたワークショップ型イベント「ポーズ・ビー・アンビシャス!!」が挙げられます。（上田氏もアドバイザーとして参加）

「宗派を超えて若手僧侶が集い、今抱えている問題、今後志す活動の展開、仏教の可能性などを話し合い、合わせてお互いの交流を深めるために、半年に一回、青松寺が提供する場」（青松寺ホームページより）と規定されるポーズ・ビー・アンビシャス!!は、毎回、グループワークやディスカッションを中

「超宗派」で検索した新聞・雑誌記事数



「超宗派」「若手」で検索した新聞・雑誌記事数



心にして半日をかけて、さまざまなテーマを議論していきました。

全 20 回の記録は以下の通りです。
(開催日時・テーマ・参加者数)

第 1 回
平成 15 年 10 月 17 日～18 日
「お寺はこんなにおもしろい～21 世紀のお寺の可能性をひらく～」47 名

第 2 回
平成 16 年 5 月 29 日
「あなたがいなけりゃはじまらない～あなたを待っている私たちがここにいます～」40 名

第 3 回
平成 16 年 11 月 18 日
「『がんばれ仏教！』の捌き方」55 名

第 4 回
平成 17 年 4 月 20 日
「吾輩は僧である。「なまえ」はまだない。」43 名

第 5 回
平成 17 年 11 月 2 日
「仏教にほえる！ -『前衛仏教論』とは何か？」36 名

第 6 回
平成 18 年 5 月 26 日
「何人寄れば、文殊の智慧？」59 名

第 7 回
平成 18 年 12 月 7 日
「何人寄れば、文殊の智慧？その 2」40 名

第 8 回
平成 19 年 6 月 8 日
「ドライ・ラマからの挑戦状～本気で仏教をやっているか～」86 名

第 9 回
平成 19 年 11 月 26 日
「それでもボクはやっている～「世襲」から考える現状 (いま)～」54 名

第 10 回

2008 年 5 月 27 日
「生死 (しょうじ)、しっかりしなさい」46 名

第 11 回
2008 年 11 月 14 日
「お坊さん出番ですよ！～葬式仏教の可能性～」50 名

第 12 回
2009 年 6 月 2 日
「75000 ヶ寺！～お寺が動けば世の中変わる？～」58 名

第 13 回
2009 年 12 月 3 日
「お坊さん これがわたしの生きる道？」55 名

第 14 回
2010 年 5 月 7 日
「仏 (ぶつ) との遭遇」43 名

第 15 回
2010 年 12 月 3 日
「もう、仏 (ほっとけ) ない!!～そうだ、街に出よう～」41 名

第 16 回
2011 年 6 月 11 日
「東日本大震災～いま、何を感じていますか～」38 名

第 17 回
2011 年 12 月 16 日
「僧人十色 あ。私も僧おもふ。」41 名

第 18 回
2012 年 6 月 12 日
「縁成 (えんじょう)」27 名

第 19 回
2012 年 12 月 5 日
「慈悲～信仰さんいらっしやい！」34 名

第 20 回
2013 年 6 月 7 日

「BBA 感謝祭～仏の道も一歩から」66 名

各回、実際に活動を行っている僧侶の発表にもとづいた事例検討や、葬儀や僧侶の世襲、東日本大震災にどう向き合うのかといった現実的な問題の討議など、多岐にわたるテーマをとりあげています。



「ポーズ・ビー・アンビシャス!!」には、10 年間でのべ 959 名が参加しました。

そこでは、「社会における仏教者の役割」や「仏教者のあるべき姿」をテーマとして、宗派をこえて、多くの若手僧侶が、現状の課題や仏教の可能性を語り合い、大きな刺激を受け、仲間を見つけてきました。

『がんばれ仏教！』とともに、現在の若手僧侶へ与えた影響は大きいと言えます。

ポーズ・ビー・アンビシャス!!というタイトルは、「僧侶よ、大志を抱け」と訳せると思いますが、つまり、スタート当時は、若手僧侶が大志を抱けない状況にあったことを表しているとも考えられます。現状に危機感を持っている、何かをやらなといけない、何かをやりたいのだけれど、何をすればよいのか分からない。大志を持ちたいけれど、持つことができない。そういったモヤモヤとした気持ちを持った若手僧侶が集える場として、ポーズ・ビー・アンビシャス!!は時代のニーズにうまく合致したのでしょう。(O)

BSR 図書室

鵜飼秀徳著

寺院消滅 失われる「地方」と「宗教」

(日経 B P 社、2015 年、1600 円+税)

「寺院消滅」、「あなたの菩提寺がなくなる？」センセーショナルな言葉が飛び込んできます。

本書は全国の寺が存続の危機に瀕している現状を、ビジネス誌記者でありながら、浄土宗寺院の副住職でもある著者が、人口減に伴って衰退する寺院経営の現状を丁寧な取材でまとめたルポルタージュです。

若年女性の減少や都市への人口流出を理由として 2040 年までに消滅する可能性のある都市（市区町村）を「消滅可能性都市」といい、全国の約 50%の自治体が該当すると言われています。そこに存在する寺院も存続できるはずがないとし、更には現在全国にある約 77,000 の寺院のうち、住職がいない無住寺院が約 20,000 に達しており、2040 年を待たずして既に寺院の消滅期に入っているという修行時代の友人（僧侶）から



の指摘・提案で地方寺院への取材が始まったそうです。

第 1 章では寺院の置かれている厳しい現状をルポルタージュ、第 2 章では懸命に生き残りを模索する寺院・僧侶の活動事例を紹介しています。第 3 章では、寺院消滅の原因を江戸時代初期より始まる檀家制度など歴史的・社会的な背景から果敢に斬り込んでいます。第 4 章では 5 つの仏教教団の調査報告を掲載しデータからも寺院消滅が避けられない事実であるとしています。

本学では、「地域創生学部」を来年度 4 月開設するため準備を進めています。そんな中、こうした危機に直面している地域について、BSR(仏教者の社会的責任)として何ができるかを考えるきっかけになる一冊です。(M)

今後の予定

9月19日(土) 11時～12時
9時～13時
13時～15時

花会式(時宗)
あさ市
お坊さんカフェ僧話花

鴨台観音堂前
南門 けやき広場
5号館 1階

※前号で予告した8月の花会式は中止となりました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。



巻頭言執筆者 紹介

藤田祐俊 (ふじた ゆうしゅん)

大正大学 BSR 推進室 構成員

仏教学科 社会教化者養成講座担当

大正大学大学院 文学研究科 史学専攻博士後期課程

単位取得満期退学

現在、大正大学 非常勤講師(歴史学・仏教学)

真言宗豊山派 真光院住職

真言宗豊山派 総合研究院 宗学研究所 常勤研究員